

森と市民をつなぐ 拠点施設整備



基本計画



目 次

1 P1~

基本計画の考え方
森と市民をつなぐ活動拠点とは

2 P2~

活動拠点のめざす姿
金沢市の森林・林業が抱える課題

3 P3~

拠点施設の選定、現況の把握

4 P5~

拠点施設の整備方針

5 P8~

拠点施設の整備イメージ

6 P9~

拠点施設の運営・企画体制

1 基本計画の考え方、森と市民をつなぐ活動拠点とは

基本計画の考え方

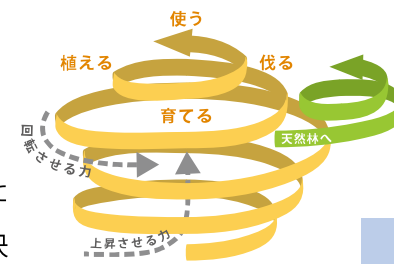
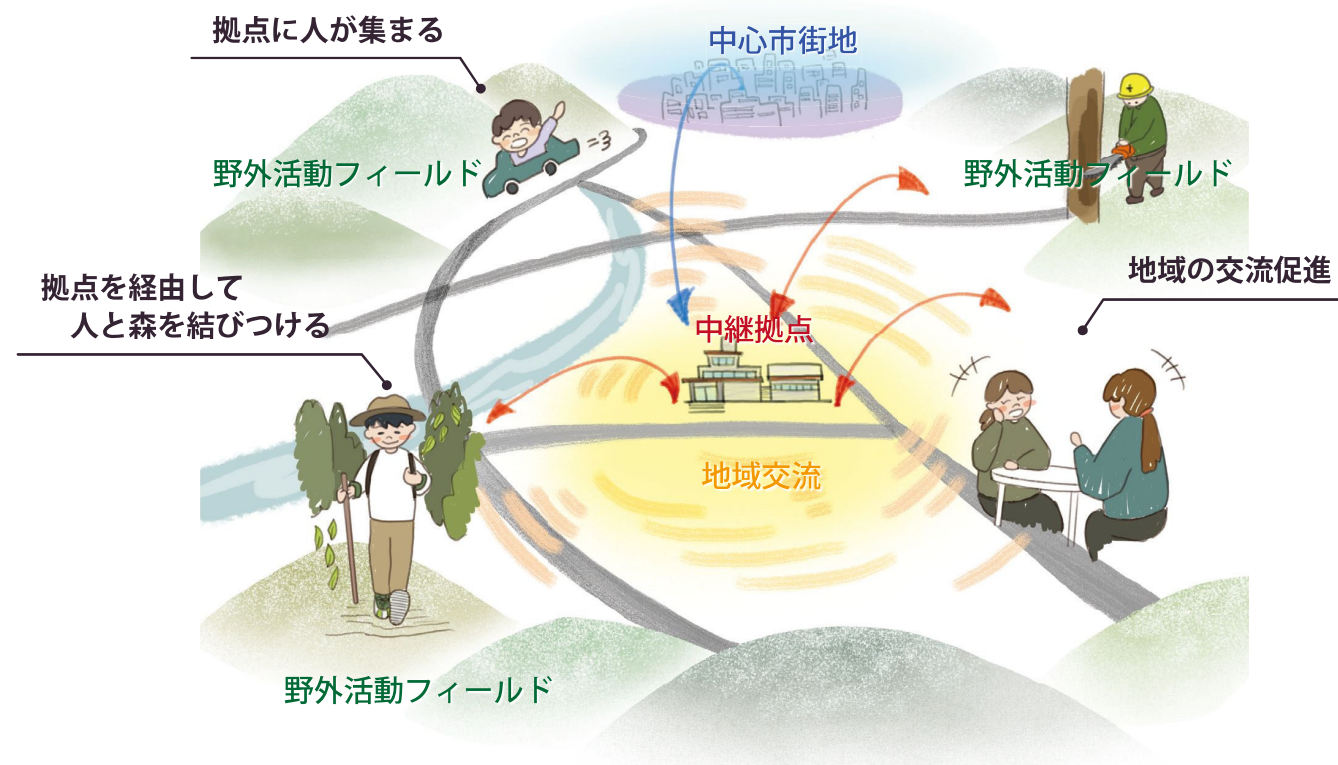
令和3年度、森林環境譲与税活用検討会から、温室効果ガス排出量の削減など、森林が持つ多面的機能を発揮するためには、従来の個別的な「森づくり活動」の手法とは違う多面的かつ流動的に森と人をつなげる仕組みが必要である旨の提言を受け、その活動を行うための拠点施設の整備に向けて、拠点のめざす姿や運営・企画体制を整理し、その施設にふさわしい機能と規模、配置計画などの整備方針をまとめるものです。

森と市民をつなぐ活動拠点とは？

森林のもつ公益的・多面的機能の効果は、「植える・育てる・伐る・使う」の施業を循環的に行い、森の循環サイクルを持続することで発揮されます。

森と市民をつなぐ活動拠点は、様々な理由により森との関わりが遠くなった人と、人との関りを失い使われなくなった森を、それぞれの理由に応じた解決方法により結び付け、森の循環サイクルを再構築できる環境・基盤を整えることを図ります。

そのため、市内各地の森（野外活動フィールド）と市民（人）を結びつける「中継拠点（ハブ）」として、事業を展開することで、森への関心を深化させ、段階的に森へ導きます。



No.	野外活動フィールド名	No.	野外活動フィールド名
1	栗崎やすらぎの林	7	金沢テクノの森
2	金石・大野やすらぎの林	8	直江谷健康の森
3	専光寺ふれあいの森	9	医王の里オートキャンプ場
4	安原海岸ふれあいの森	10	平栗いこいの森
5	金沢北の森	11	上辰巳いたやの森
6	金沢宮野の森	12	甥杉 金沢林業大学校実習林

※市内における代表的な野外活動のフィールドをプロット

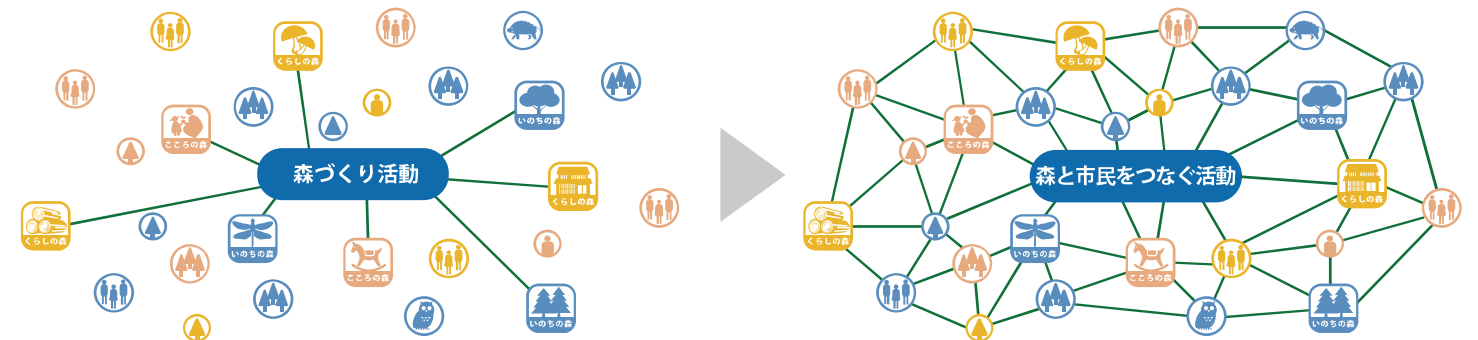


2 森と市民をつなぐ活動拠点のめざす姿、金沢市の森林・林業が抱える課題

森と市民をつなぐ活動拠点のめざす姿



健全な森林の育成・整備、森林資源の利用拡大及び
森づくり活動の推進の持続的な発展のため、
多面的かつ流動的に森と市民をつなげる中継拠点



「森づくり活動」から「森と市民をつなぐ活動」へのアップデート

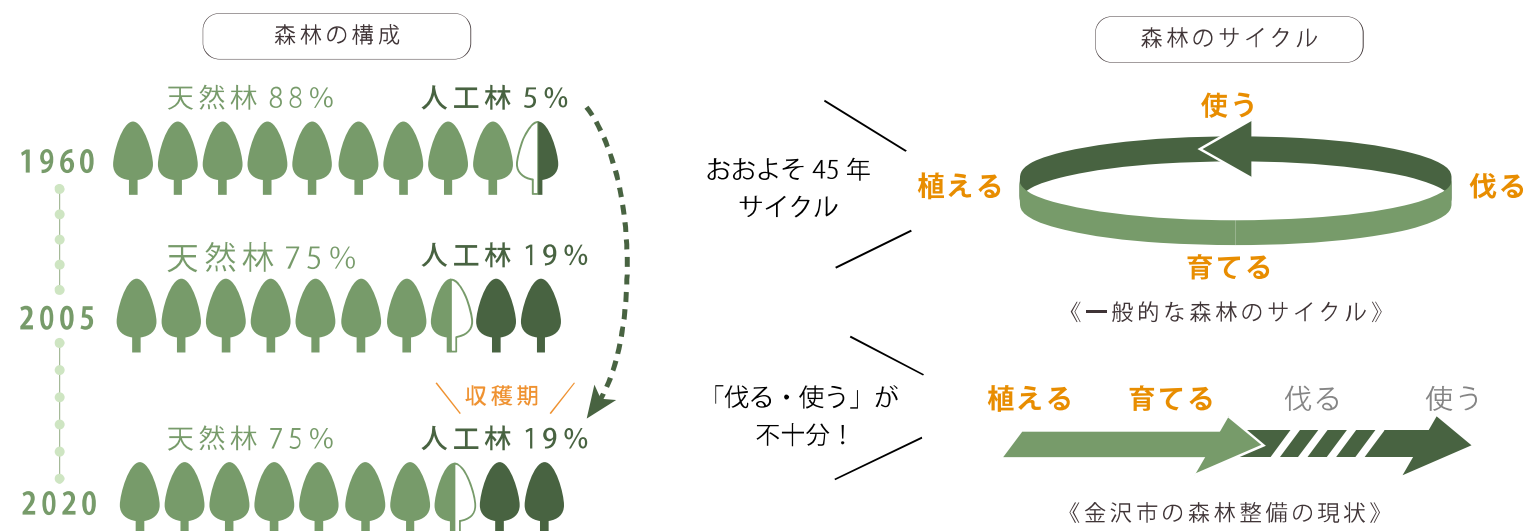
金沢市の森林・林業が抱える課題

●森林・林業が抱える課題

森林が有する地球温暖化防止、災害防止、水源涵養など公益的機能は広く国民に恩恵を与えるものであり、森林整備は国土や国民の命を守るために必要不可欠です。しかしながら、所有者の意欲低下や所有者不明森林の増加、担い手の不足等から森林の整備が停滞しています。

●金沢市特有の課題

金沢市は、市の総面積のおよそ 60% が森林であり、スギを中心とした人工林が 19%、国有林を含めた天然林が 75% で広葉樹が優先する状況です。人工林の多くは林齢 45 年を迎え、木材利用に向けた収穫（主伐）を待っている状態ですが、人工林だけでなく、天然林も含めて、次世代につなげていくための「植える・育てる・伐る・使う」の持続可能な新しい循環サイクルを構築する必要があります。



3 拠点施設の選定、現況の把握

拠点施設の選定条件

活動拠点となる施設を選定するにあたり、「**立地**」、「**建物**」の2つの視点から検討を行い、**旧東浅川小学校の校舎・屋内運動場・運動場を選定**しました。

立地からみた選定条件

- 条件1 中心市街地と中山間地域の概ね中間にあること
- 条件2 県道に隣接し、公共交通の利用も可能なこと
- 条件3 施設利用者の駐車場スペースを確保できること

建物からみた選定条件

- 条件1 500㎡以上の屋内空間が一体利用できること
- 条件2 現在の耐震基準を満たしていること
- 条件3 早期に改修・活用ができること

拠点施設・周辺環境の現況（選定理由1）

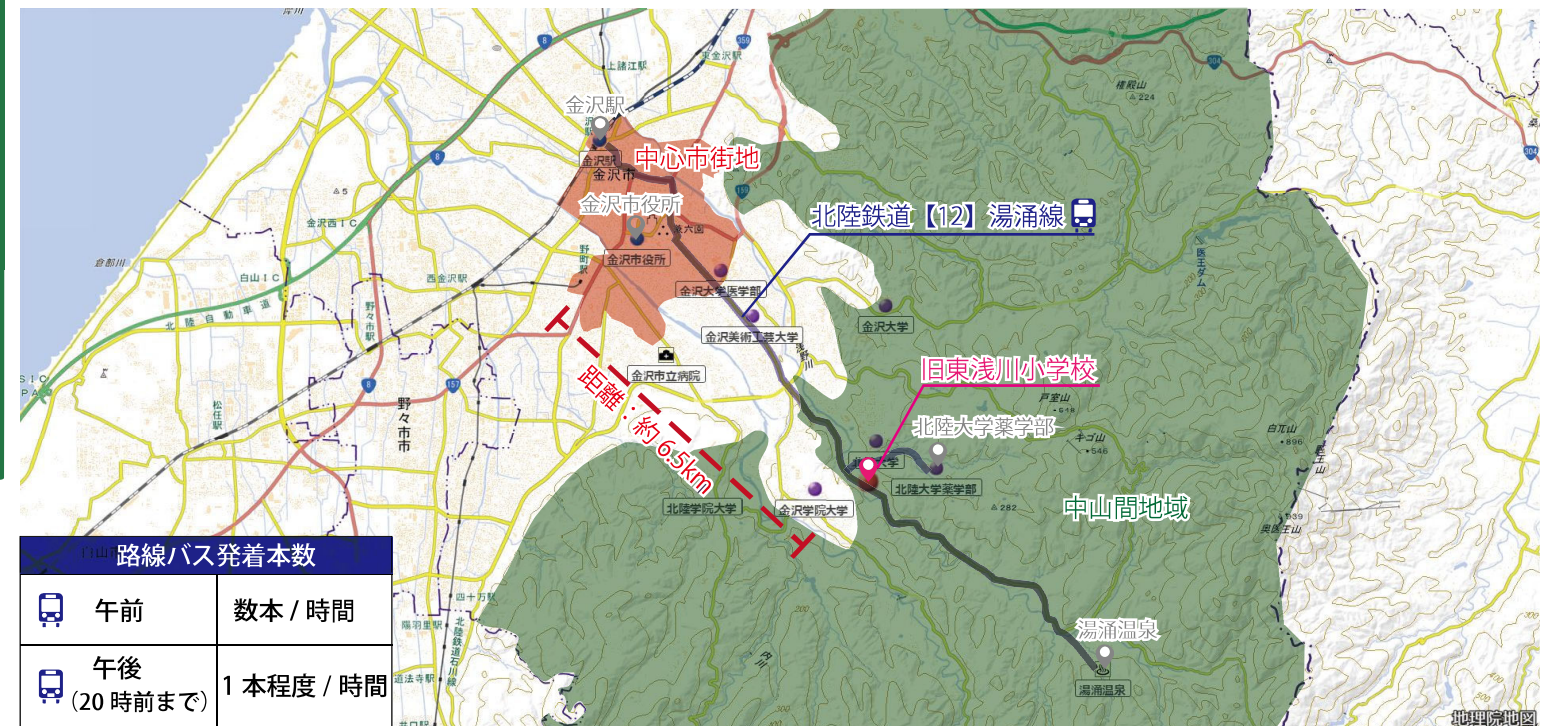
拠点施設周辺現況写真



●拠点施設の立地、施設へのアクセス

拠点施設は、中心市街地と中山間地域の両端部から**概ね中間に位置**しており、中心市街地に位置する金沢市役所からは、距離として約6.5km（車で15分程度）の立地です。 **立地条件1：適合**

周辺には**県道湯涌福光線が隣接**しています。また、公共交通は、**北陸大学薬学部及び湯涌温泉を終点とするバス路線が設定**されています。また、最寄りの**バス停までは徒歩2～3分**の立地です。 **立地条件2：適合**



3 拠点施設の選定、現況の把握



拠点施設・周辺環境の現況（選定理由2）

●拠点施設の土地（敷地）について

建物の敷地面積は 4,720 m²、運動場の敷地面積は 3,187 m²です。現在、運動場は、学校開放として地域の活動のために使用されています。

既存駐車場として、敷地内には 10 台程度のスペースが確保されています。また、拠点施設利用者数より想定される駐車場必要台数に応じて、運動場（一部）やプール（取壊し後の跡地）などの駐車場として整備可能なスペースを有しています。 **立地条件3：適合**

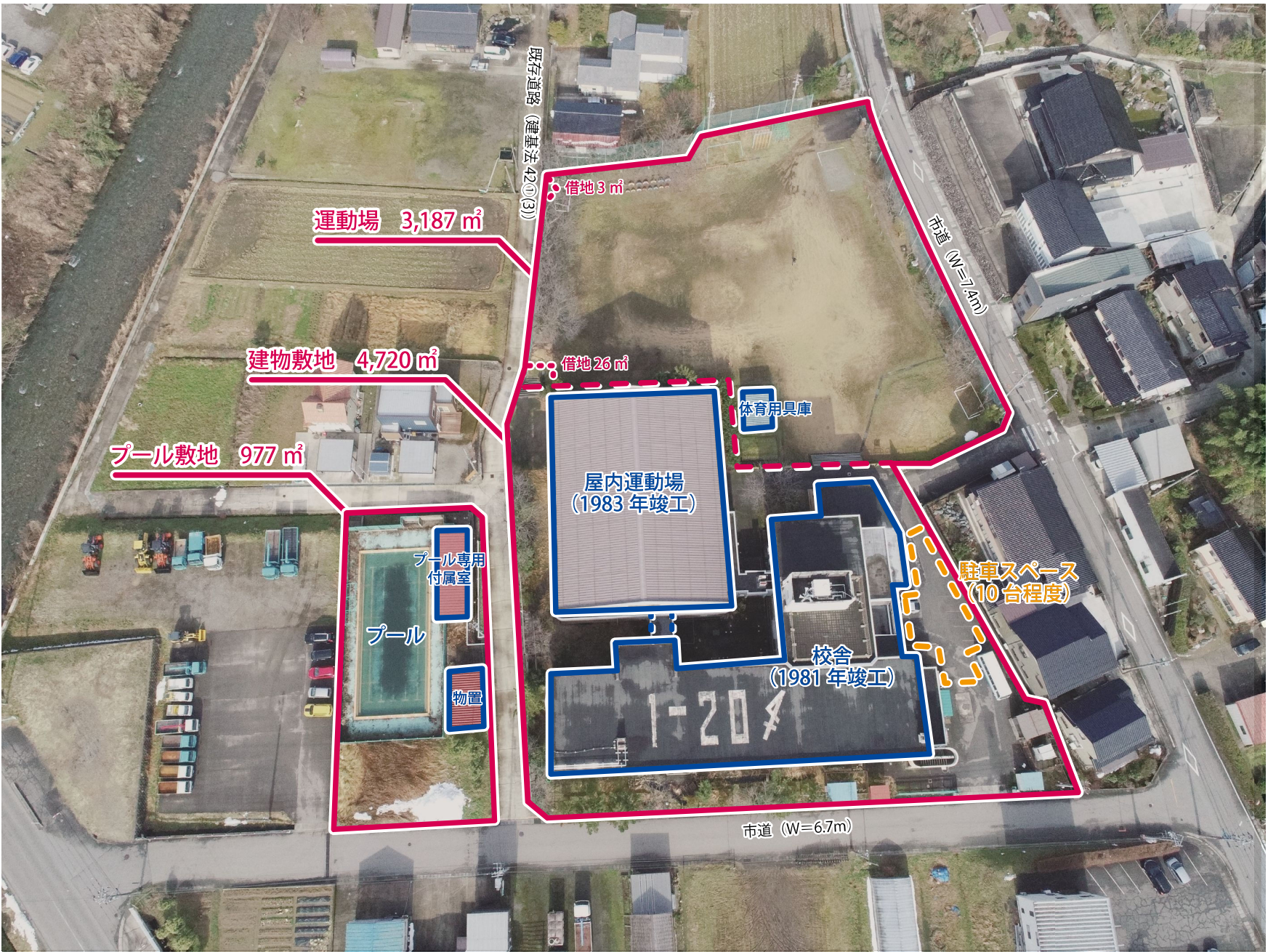
区分	面積	
校舎・屋内運動場敷地	4,720 m ²	8,884 m ²
運動場	3,187 m ² 借地 29 m ²	借地 29 m ²
プール	977 m ²	8,913 m ²

●拠点施設の建物について

校舎及び屋内運動場の延べ床面積はそれぞれ 2,612 m²及び 787 m²です。現在、屋内運動場は学校施設開放事業に利用されています。

旧東浅川小学校は、校舎を昭和 56 年に建設（竣工）し、平成 18 年に耐震改修工事を完了しています。また、屋内運動場は昭和 58 年に新耐震基準にて建設しています。そのため、両施設ともに拠点施設の建物として活用することに伴う耐震改修工事を必要としないです。 **建物条件1～3：適合**

区分	竣工年	構造・延床面積	沿革
校舎 (管理室・教室棟)	S56年 (1981年)	RC造 3階建 2,612 m ²	S56.09 竣工 H18 耐震補強工事 H24 大規模改修(エコ改修)
屋内運動場	S58年 (1983年)	RC造 1階建 787 m ²	S58.03 竣工【新耐震基準】 H11 屋根葺替工事 H24 大規模改修(エコ改修) H27～28 防災(外壁)工事



土地の利用制限

●都市計画・景観政策関係

区分	項目	内容
用途地域、 建蔽・容積率等	都市計画区域 区域区分	都市計画区域内 市街化調整区域
	建蔽率・容積率	60%・100%
景観法	景観計画区域	その他の区域
屋外広告物条例	屋外広告物（禁止地域等）	第6種禁止地域（プール、校舎・屋内運動場の一部が指定）
夜間景観形成条例	照明環境形成地域	自然環境地域

※防火・準防火地域・22条区域、高度地区、その他の区域の指定なし
※景観法、屋外広告物条例、夜間景観形成条例、その他の条例・保全区域の指定なし

●防災関係・その他

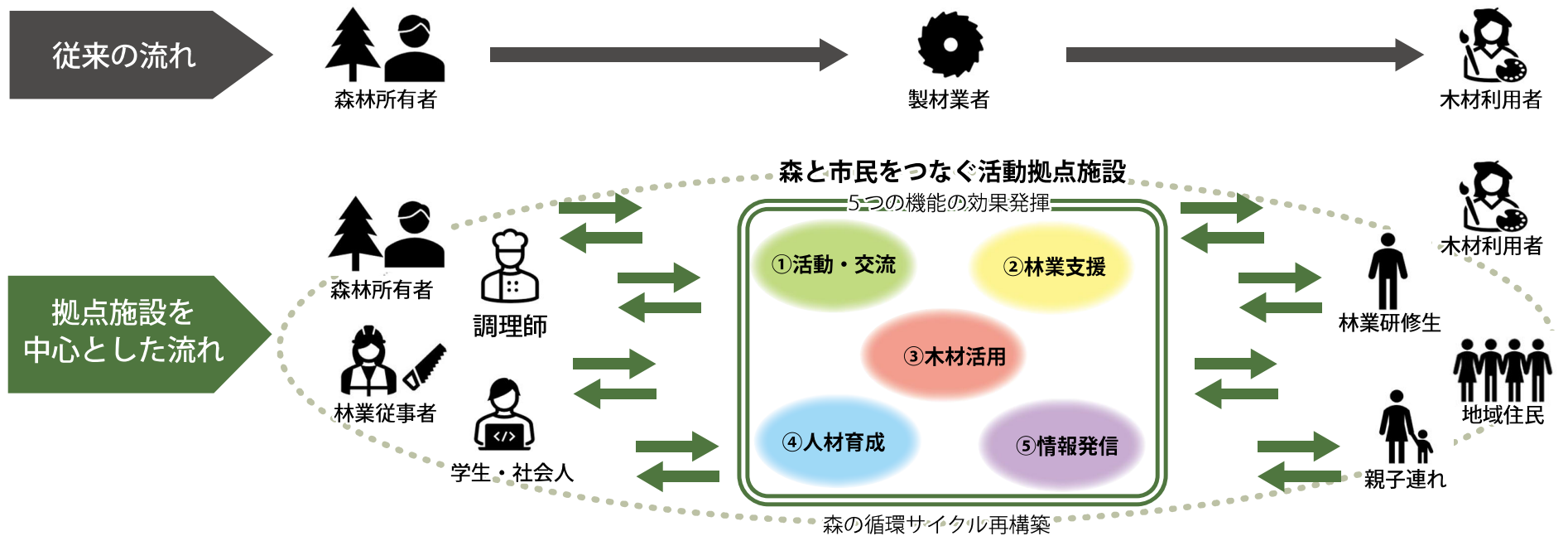
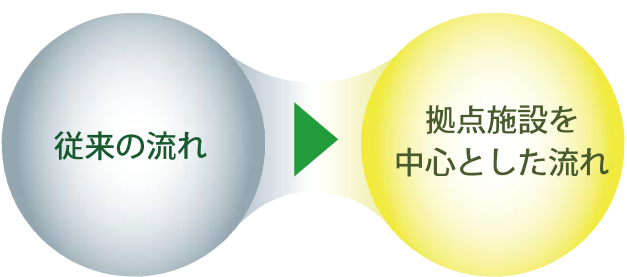
区分	項目	内容
土砂災害警戒区域		土石流 - イエローゾーン
緊急輸送道路		第2次緊急輸送道路の指定（県道10号：金沢湯涌福光線）
その他	避難所	「拠点避難所」に指定
	防災設備	「同報防災無線」設置場所
	連合会区域名・町会区域名	東浅川校下町会連合会・浅川町町会

※砂防三法、宅地造成等工事規制区域、津波災害警戒区域、家屋倒壊等氾濫想定区域、洪水浸水想定区域などの指定なし
※液化化危険度は判定対象外の区域である。文化財保護法（周知の埋蔵文化財包蔵地）の指定なし

4 拠点施設の整備方針

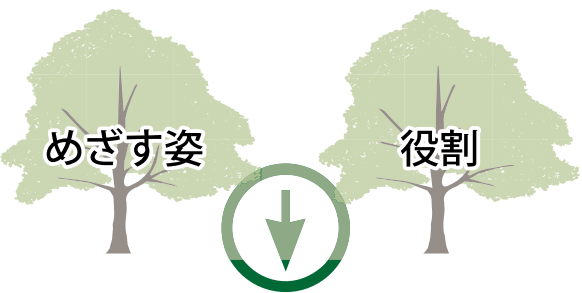
拠点施設の役割

従来の「川上（森林所有者）→川中（製材業者）→川下（木材利用者）」への一方通行である情報の流れを変えるため、「川上、川下」双方向からの情報を受信・発信するための中継拠点となることで、多様な森のすがたを次世代につなぐ役割を果たします。



拠点施設の機能、想定する活動と必要なスペース

前述した拠点施設の「めざす姿」と「役割」を踏まえ、拠点施設に付与する5つの拠点機能と、想定する活動、そのために必要となるスペースを右表の通りとします。



【拠点施設に付与する5つの機能の考え方】

- ①健全な森林の育成・整備のための森林情報の発信と担い手育成
①活動・交流 ②林業支援 ④人材育成 ⑤情報発信
- ②森林資源の利用拡大のための物理的、技術的な利用環境の提供
①活動・交流 ②林業支援 ③木材活用 ④人材育成
- ③森づくり活動の推進のための森育・木育活動による感動の提供
①活動・交流 ③木材活用 ⑤情報発信

拠点機能	想定する活動	必要なスペース
① 活動・交流 幼児や小学生、ボランティアを対象とした森育・木育活動の実施	・林業体験ワークショップ ・木のおもちゃの体験、VR 林業体験 ・森と木を学べる情報の展示、交流サロン ・林産物、地元食材の調理等のワークショップ	・木工房スペース ・木育スペース、多目的室 ・交流ホール、ラウンジ ・屋内運動場、運動場、調理室
② 林業支援 「森林管理を希望する人」と「森林を使いたい人」のマッチング	・森林所有者向 相続関係：登記、境界確認、税 ・就業希望者向 活動支援：公的補助制度、森林バンク	・交流ホール ・事務局（相談コーナー）
③ 木材活用 芸術家やローカルベンチャー等による木材の有効活用の支援	・個人事業主、美術・工業系学生、一般市民が 木製品や林産物レシピ等を制作・研究 ・アトリエ工房貸出（部屋・道具） ・金沢産材の材料販売	・木工房スペース ・アトリエスペース ・調理室スペース ・木材集積スペース
④ 人材育成 林業の担い手育成のための金沢林業大学の運営	・金沢林業大学校事務局 ・座学実習、屋外実習（道具メンテナンス等） ・公開講座（林業体験講座等）	・事務局 ・多目的室 ・屋外作業場、倉庫 ・更衣室
⑤ 情報発信 森林・林業に関する情報発信（イベント、制度、木材、製品等）	・各種イベント情報、木造建築物等の情報発信 ・林業道具、建築資材、木材活用事例等の発信	・事務局 ・交流ホール ・エントランス ・ラウンジ（コワーキングスペース）

4 拠点施設の整備方針

地域交流・防災拠点の整備について

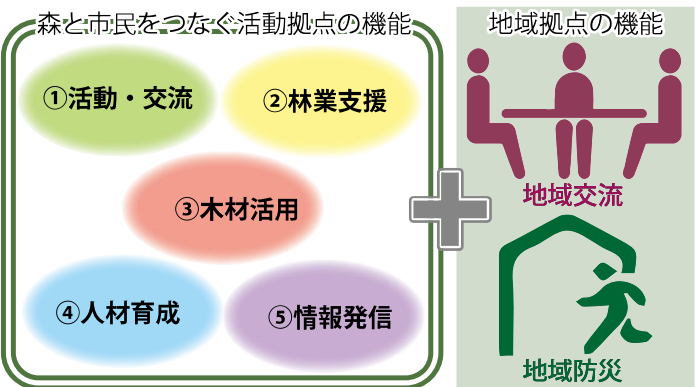
拠点施設については、森と市民をつなぐ活動拠点としての5つの機能だけでなく、地域にも愛され住民に活用される施設となるよう地域の「交流」、「防災」としての機能を併せ持つ施設として整備します。

地域交流の機能

公民館の移管、児童クラブの入居、催事・地域活動 など

地域防災の機能

地震、大雨時の拠点避難所（校舎、屋内運動場） など



施設整備のコンセプト

Design

森との共生、木の文化都市、森の感性を創造させるデザインとなるよう、建物内部の木質化や空間の設えなどを整えます

Circulation

森林サイクルの循環を連想させるよう、何度でも訪れたい魅力ある空間をつくります

Variety

時代の状況や利用者のニーズに応じて柔軟に施設を活用できるよう、多様な用途に応じることができる可変な空間を設けます

Interaction

地域住民、林業従事者、学生、市民など、あらゆる世代の人達が交流することで、賑わい創出に繋がる空間をつくります

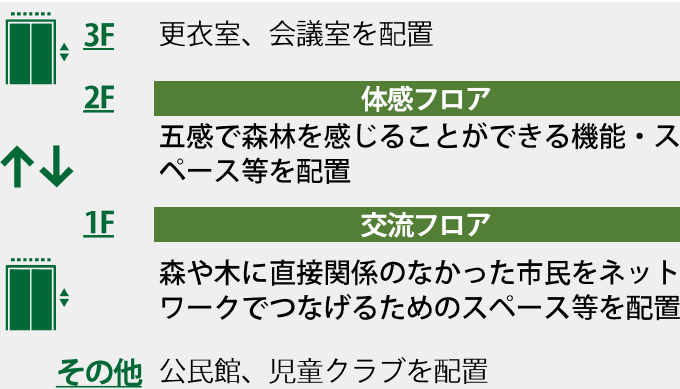
Symbol

金沢の森と市民が繋がる新しいプラットフォーム及び地域拠点のシンボルとなる施設の顔をつくります

※必要な整備

■バリアフリー・子育てへの対応 ■便所の洋式化 ■建物の経年劣化の修繕 ■設備の改修 ■駐車場の整備 など

階層によるゾーニングの考え方



旧校舎	旧屋内運動場
3F ・更衣室 ・会議室	
体感フロア	
・木工房スペース ・木工房 ・木工房	・森育、木育イベントスペース
2F ・木工房スペース ・木工房 ・木工房	・公民館活動スペース
交流フロア	・児童クラブ活動スペース
1F ・交流ホール ・公民館 ・事務局 ・児童クラブ	

※森育・木育イベントでは、野外活動フィールドも活用する予定

拠点施設における必要駐車場の規模（台数）想定について

駐車場の規模（台数）想定については、以下の簡易な計算式により想定します。

$$\text{必要駐車場台数 } A = \left(\frac{355 \text{ (人)}}{09} \times \frac{09}{2.5 \text{ (人)}} \right) \text{ 台} + 13 \text{ 台} \div 141 \text{ 台}$$

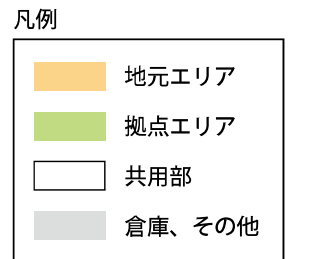
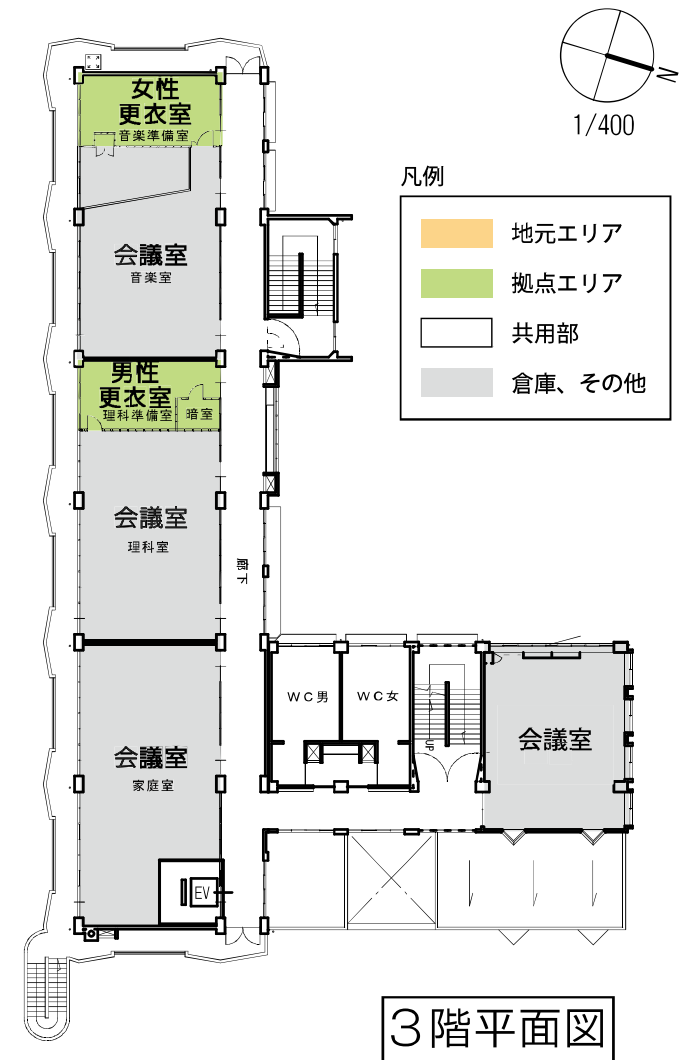
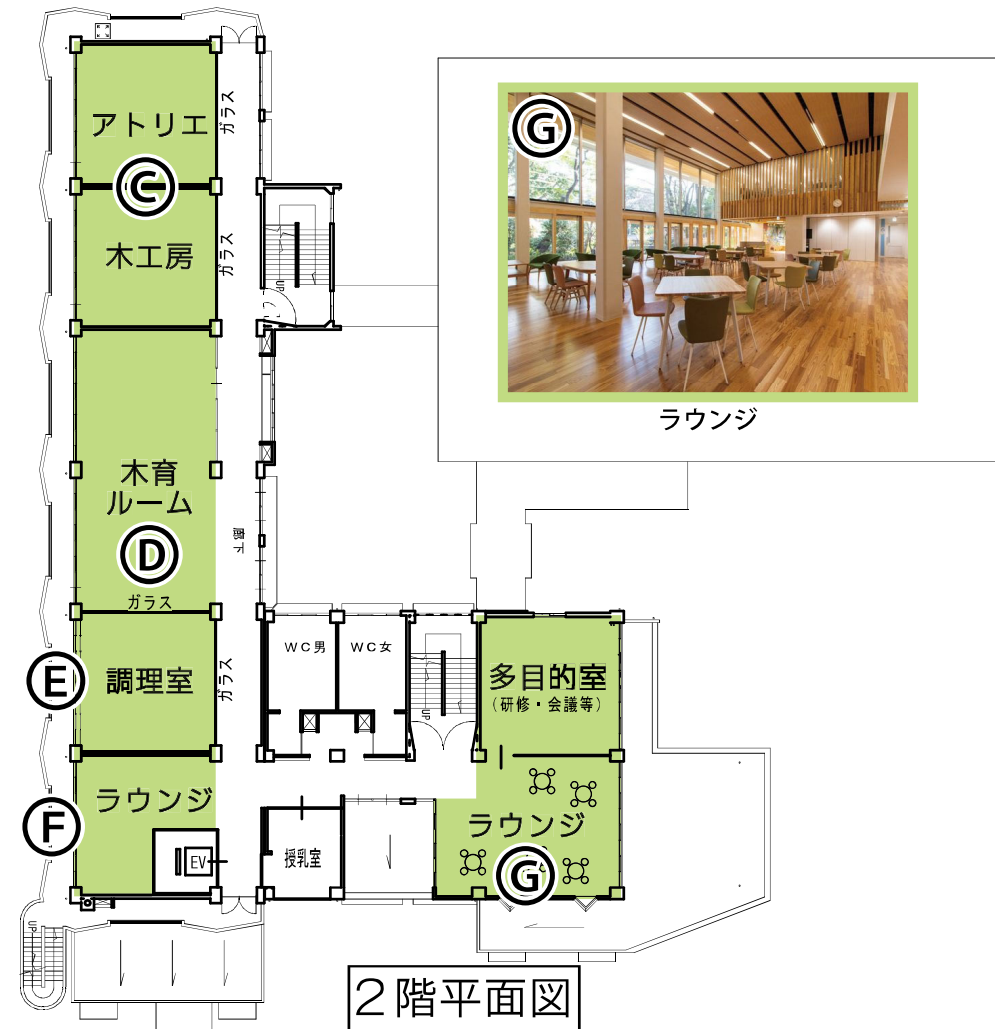
児童クラブと事務局の人数を除く、1日最大同時利用者数 ↑ 利用率 ↑ 平均乗車人数 ↑ 事務局必要台数 (1台/人)
※回転率は1.0と仮定、利用率と平均乗車人数は、「造園ハンドブック」の平均値を採用、施設の1日の最大同時利用者数は右表にて算出

拠点施設の規模

	機能	規模	
1F	事務局（相談コーナー） ②林業支援 ④人材育成 ⑤情報発信	64 m ²	13 人
	交流ホール ①活動・交流 ・交流サロン ・森と木を学べる情報展示 ②林業支援 ・所有者、森林所有者の各種相談受付 ⑤情報発信 ・各種イベント情報、木造建築物等の情報発信	121 m ²	50 人
	エントランス ⑤情報発信 ・林業道具、建築資材、木材活用事例等の発信	132 m ²	—
	公民館	192 m ²	50 人
	児童クラブ	56 m ²	33 人
	その他供用部 （トイレ、廊下、階段、物置など）	421 m ²	—
2F	木工房・アトリエ ①活動・交流 ③木材活用 ・林業体験ワークショップ ・個人事業主、美術・工業系学生、一般市民の制作・研究 ・アトリエ工房貸出（部屋、道具）	128 m ²	64 人
	木育ルーム ①活動・交流 ・木のおもちゃ体験	128 m ²	64 人
	調理室 ①活動・交流 ③木材活用 ・林産物、地元食材の調理等のワークショップ ・林産物レシピ等の制作・研究	64 m ²	32 人
	多目的室（研修・会議室） ①活動・交流 ④人材育成 ・VR 林業体験 ・座学実習、屋外実習、公開講座	64 m ²	42 人
	ラウンジ ①活動・交流 ⑤情報発信 ・交流サロン ・情報展示、発信 ・コワーキングスペース	128 m ²	53 人
	その他供用部 （トイレ、廊下、階段、物置など）	325 m ²	—
3F	更衣室 ・林業大学生用	64 m ²	—
	会議室（4室）	397 m ²	—
	その他供用部 （トイレ、廊下、階段、物置など）	295 m ²	—
合 計		2,579 m ²	401 人

4 拠点施設の整備方針

拠点施設の配置計画



5 拠点施設の整備イメージ



拠点施設の整備イメージパース（内観）

拠点施設の整備イメージとして、「1F：交流ホール」と「2F：ラウンジ（北側）」のイメージパースは以下の通りです。

1F：（上） エントランスホール、（下） 交流ホール イメージパース



2F：ラウンジ（北側） イメージパース



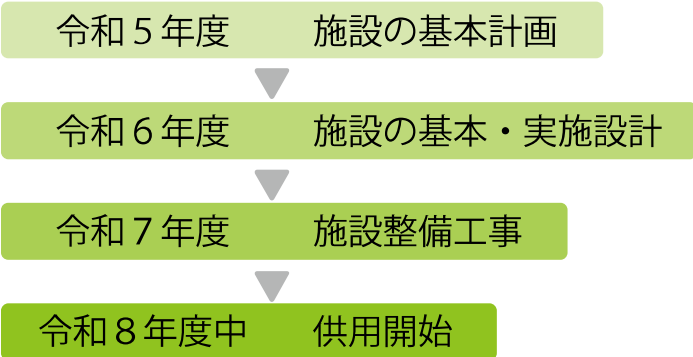
概算工事費（想定）

区分	施設名及び工事名	工事費（円）
建築	校舎建築改修工事	275,000,000
	校舎木育スペース整備工事	35,000,000
設備	校舎給排水衛生設備改修工事	59,000,000
	校舎空調設備改修工事	44,000,000
	校舎電気設備改修工事	54,000,000
	校舎昇降機設備増設工事	26,000,000
土木	外構工事	87,000,000
合計		580,000,000

※各工事費は、諸経費・税込みの金額
※上記工事費は、令和7年度発注想定で算出した工事費を把握するための金額であり、今後の設計において金額は変動する可能性がある



施設整備のスケジュール（予定）



※上記スケジュールは大枠の予定であり、今後の設計や工事の状況などによって変動する可能性がある

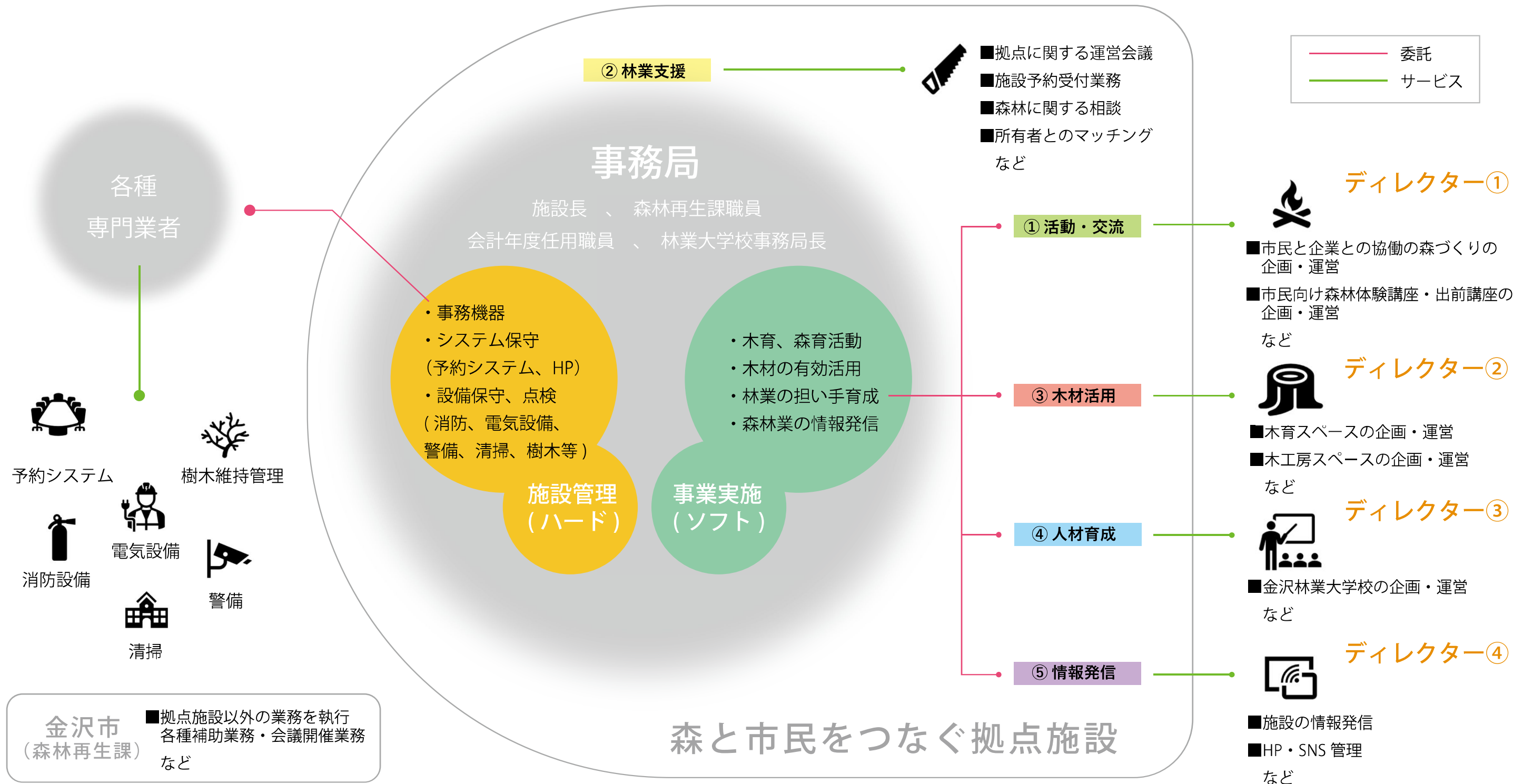
6 拠点施設の運営・企画体制

拠点施設の運営組織図

森と人をつなぐ活動拠点における5つの機能を効果的に発揮できるよう、**各機能に応じたディレクターを配置**し、拠点施設及び野外活動フィールドを活用した事業を展開します。

運営体制 の概要

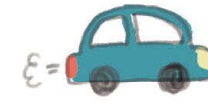
- ・森と市民をつなぐ拠点施設には、事務局を設置し、必要な職員を配置します。
- ・事務局機能としては、「②林業支援」の機能のほか、施設の保守業務や予約受付などを担当します。適宜、事務局とディレクターで運営会議を開催し、事業の全体調整を行います。



6 拠点施設の運営・企画体制

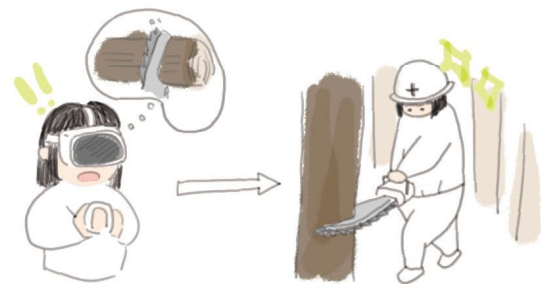
拠点施設と野外活動フィールドの連携（想定される利用者の動き）

拠点施設から野外フィールドへ



野外フィールドから拠点施設へ

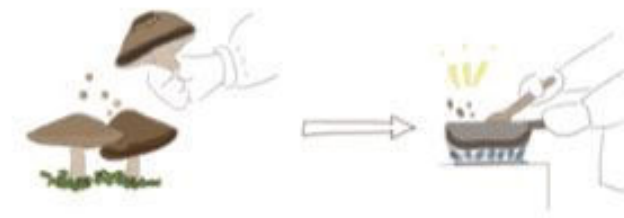
想定 1. 林業体験ワークショップ
VR（仮想現実）林業体験



実際の林業を体験・見学

拠点施設にて、チェーンソーの VR 体験、ハーベスタのシミュレーター体験、丸太切り体験などを行い、その後、野外活動フィールド（森）にて、伐採から集材までのデモンストレーション、バックホーでの作業道敷設、作業道散策など、実際の現場を見学するワークショップなどと連動することで、より一層理解が深まります。

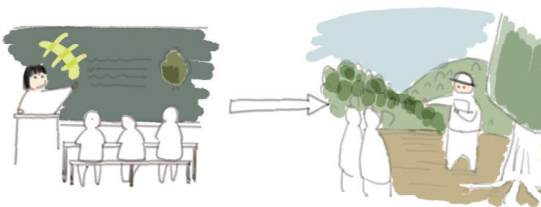
想定 2. 林産物や地元食材の採取



林産物、地元食材を使った
調理ワークショップの開催

野外活動フィールド（森）、又は、東浅川地区又はその近隣地区にて林産物や地元食材を採取し、それらの食材を拠点施設に持ち寄り調理・ワークショップ（レシピの製作・研究）などを行うことで、森林の恵みによる喜びや重要性を学びます。

想定 4. 金沢林業大学校の研修
（座学、基礎的技能講習など）



林業の就業実習
（主伐、植栽、車両系建設機械、林産物など）

拠点施設にて、金沢林業大学校の研修（座学、屋内での基礎的技能講習・実習など）を行い、その後、野外活動フィールド（森）の実習林にて、拠点施設で学んだ道具の使い方、機会操作・メンテナンス等の方法や、林業の就業に必要な知識・技術を実践的な研修として学びます。

想定 3. 自然素材、材料の採取

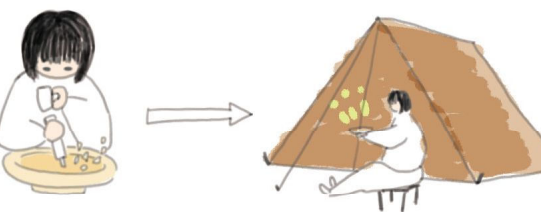


クラフト作品づくりの開催

野外活動フィールド（森）にて、四季や場所毎に採取できる様々な自然素材・材料（松ぼっくり、どんぐり、木の葉、枝・葉など）を採取し、それらを拠点施設に持ち寄りクラフト作品づくりなどを行うことで、森林への親しみや興味などを育みます。

例）松ぼっくりツリー、木の葉のしおり、
絵はがき、丸太のネームタグ、
木の葉のアクセサリーづくり、藍染体験など

想定 5. キャンプに使用する生活用品作成
キャンプ料理を学ぶ



ソロキャンプを楽しむ

拠点施設にて、キャンプに使用する木の生活用品（スギ皿、木スプーン・フォーク、箸、ペーパーナイフなど）のを行い、その後、野外活動フィールド（森）のオートキャンプ場にて、木の生活用品を使用しソロキャンプを楽しみます。体験を通して森や木に親しみながら、新たなアイデアや楽しみを生み出し、より一層森林を好きになることを期待します。

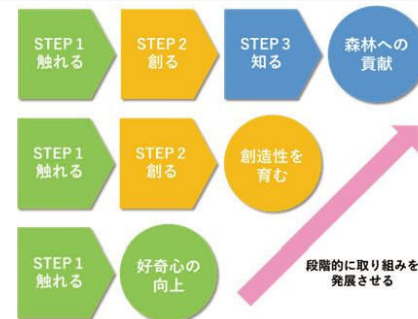


6 拠点施設の運営・企画体制

拠点施設において想定する活動内容

(1) 活動・交流

幼児や小学生（その保護者である子育て世代を含む）、ボランティアなどを対象として、森育・木育活動の様々な体験（STEP1: 触れる、STEP2: つくる、STEP3: 知る）を通じ、森林に親しみや興味などをもっていただく「きっかけ」を創出します。



①林業体験ワークショップ、VR（仮想現実）林業体験の開催

森林・林業に関する普及啓発を目的として、様々な手法による林業体験を行います。

例えば、本施設において、仮想空間上でチェーンソーを使い立木を伐倒する「チェーンソーのVR体験」、パソコンに操作レバーを接続し、画面上にてハーベスタ（伐倒造材機械）を操作し伐倒、造材を疑似体験する「ハーベスタのシミュレーター体験」、森林を活用した新しい遊び場プロデュース（森林の遊び場の計画～整備）、炭焼き：木炭づくり、薪の火おこし体験、スウェーデントーチづくり、ホダ木などの原木栽培体験（木材腐朽菌のきのこを栽培）、丸太切り体験などが挙げられます。



チェーンソー VR
(三重県津農林水産事務所森林・林業室
(林業振興課)HP)



ハーベスタ (三重県 HP)



丸太切り (三重県 HP)

②木のおもちゃの体験 (木育ワークショップ) の開催

子どもたちが木や森に対して興味・関心を持ち、好奇心の向上に資する機会の創出を図ります。

そのためには、親子で楽しむ多世代交流として、実際に木のおもちゃを手にとって遊べる体験型の木育ワークショップを行います。

例えば、モルック体験、丸太切りカーリング、アートパズル、積み木などのゲームや、県内外のおもちゃ作家、デザイナー、民間事業者等と連携したおもちゃづくりなどを開催します。



木育ワークショップ
(石川県木材利用推進協議会
(石川県森林組合連合会) HP)

③木育スペース (遊び場、学び場) の整備

子どもたちの木や森に対する好奇心を向上させるため、木育スペースには「遊び場（自由な発想による遊び、森林の形状を模した遊具、五感を活用した遊び、木のおもちゃを活用したごっこ遊びなど）」と、「学び場（森林に関する書籍、絵本、塗り絵など）」を設けることで、子ども達が自然と木に触れ・楽しむことができる場所を整備します。

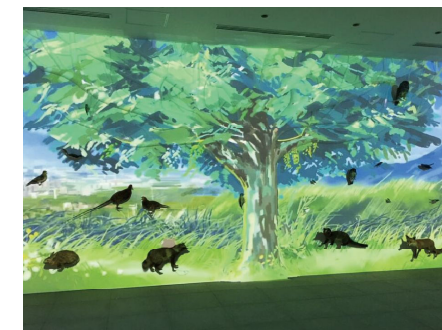


木育スペース (ときなる HP)

④森と木を学べる情報の展示、交流サロンの整備

より興味を持って森や木に関する情報を見てもらえる様に利用者が楽しめる工夫（プロジェクションマッピングやデジタルサイネージ等を活用した映像発信やクイズ形式など）を施し、森林に関する活動やイベント、森と木を学べる情報などを展示します。

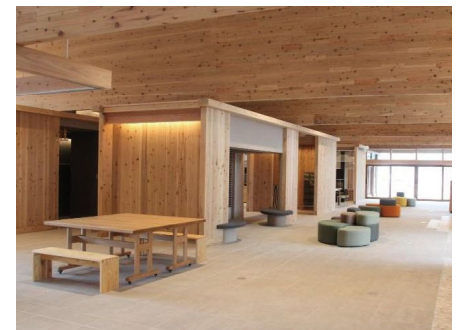
また、交流サロンでは、森林の世界観を五感で感じることができるよう、木材を活用した内部空間、リラックス効果を与える森林の音（鳥のさえずり、風に揺れる木々や水の音）、松やヒノキ、樹木の花の香などを設けます。



プロジェクションマッピング
(株)ウチダテクノ HP)



木の面白さを伝える展示
(岐阜県立森林文化アカデミー HP)



交流サロン
(南会津町 HP)

⑤チャレンジキッチン、シェアキッチンの開催

森の様々な恵みを活用した「樹々の葉や枝など」の香りを楽しむカフェや、「ジビエ・山菜など」を掛け合わせた創作料理などを提供し、食を通じて森や木に親しみを感じてもらうことを目指します。

そのためには、木や森に興味のある方、飲食店や食品製造販売を志す人などを対象に、試験的に自分のお店として使うことができるスペースとなる、チャレンジキッチン、シェアキッチンなどの展開を図ります。



シェアキッチン (1の1NONOICHI HP)

6 拠点施設の運営・企画体制

拠点施設において想定する活動内容

⑥林産物、地元食材の調理等のワークショップの開催

私たちの生活を豊かにしてくれる身近な森林の恵みを理解するために、林産物や地元食材を使った料理を自ら考え、学び、食することで、収穫→調理→飲食までの一連の流れについて、体験（見て、触れて、味わって）を通じたワークショップを行います。

例）特用林産物の料理、和ハーブの調合など



調理ワークショップ
(八ヶ岳中央農業実践大学校 HP)



調理ワークショップ
(長岡市おぐに森林公園 HP)

特用林産物

きのこ類、特用樹類、
山菜類、薬用植物類、
樹実類、樹脂類、竹類、
木炭等

②スタートアップ支援、多彩なコミュニティ形成支援

林業従事者の増加のため、新たに林業を始めたい人に対し、林業の専門知識スタートアップ支援となるセミナーの開催を図ります。

また、林業の新たなビジネス・イノベーションを創出することを目的に、地域おこし協力隊、地元自治会・協議会、大学・民間企業、イベント企画運営主体などの多様なコミュニティを繋ぐため、様々な情報（人材、機材）の集積と、主体同士の交流支援を図ります。



セミナー
(佐賀県 HP)

(3) 木材活用

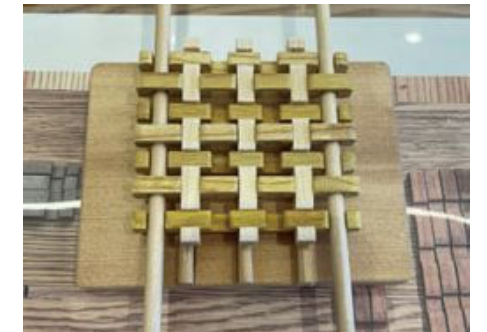
芸術家やローカルベンチャー等による木材の有効活用や、個人事業主、学生、一般市民等による木製品や林産物レシピの制作・研究活動場所の創出、金沢産木材の流通促進などを図ります。

①木製品や林産物レシピなどの製作・研究の開催

子どもから大人までの幅広い年代を対象に、手ぶらで参加でき木にふれる「体験プログラム（木工作体験：のこぎり、トンカチなどを使用）」や「DIY 講座」などを開催し、木材の加工により日常使用する木製品（コースター、木製の道具、食器）や記念品・置物などをつくることで、木に対する興味・関心を高めます。

また、より森や木に対する深い体験が可能な「ネイチャークラフト」や、経験者や林業の知識、道具の使用に関する技量の高い人に対しては「特別プログラム」として、木に造詣が深い林業家や木工作家などの講師を招き、更なる木への関心を深めます。

木製品の制作に興味のない人には、「食」の観点から森で採れた山菜や特用林産物などの食材を自分たちで調理し食べるイベントの開催、新たなレシピの研究などを通じて、森や木についての興味・関心を高めます。



体験プログラム



イベント（農林水産省 HP）

(2) 林業支援

「森林管理を希望する人」と「森林を使いたい人」などのマッチングや、林業のスタートアップ支援、多様なコミュニティ形成支援、各自の困りごとを相談できる場所の創出を図ります。

①森林事業者・関係者の相談窓口、ビジネスマッチング機能の新設

林業所有者向け（相続関係：登記、境界確認、税など）や、就業希望者向け（活動支援：公的補助制度、森林バンクなど）の相談コーナーを設け、林業に対するあらゆる相談にのります。

また、林業所有者と就業希望者などのお互いのニーズをマッチングさせるシステムの構築（情報のデータベース化等を含む）や、エンドユーザーを繋ぐ場所として、交流ができる場所の整備を図ります。



相談コーナー（MOCTION HP）



マッチングシステム（山守 HP）

6 拠点施設の運営・企画体制

拠点施設において想定する活動内容

②芸術家やローカルベンチャー等による木材の有効活用、木製品の企画・開発、アート制作への利用促進

木材の有効活用を図るため、芸術家やローカルベンチャーなどにアトリエ工房として貸出スペースを整備することで、起業や展示会の開催、木製品の企画・開発、アート制作などへの利用を促進します。そこで創られた商品や作品は、新しい価値を創出するものとなることを期待します。



アトリエ工房舎
(文部科学省ミラメク HP 岡山県笠岡市シェアアトリエ海の校紹介)

③金沢産木材の流通（販売）促進

森林所有者や製造業者の林業収入増加による意欲向上と、木材の流通経路の多様化、需要と供給のバランス調整などを図ることを目的に、金沢産木材の材料販売を実施します。



金沢産木材

(4) 人材育成

林業の担い手育成のため、金沢林業大学校を永安町の金沢森林組合内から移し、本施設にて大学校の運営を実施します。また、学校等と連携した森林環境教育を推進します。

①金沢林業大学校による研修

金沢林業大学校の研修（座学、屋内での基礎的技能講習・実習など）を本施設で行い、林業に関する知識や技術を身につけ、森林の適正な整備と保全、中山間地域の活性化を目指した森林管理や林産物生産等を担う人材を育成します。



研修（長野県庁 HP）



野外研修（くまもと林業大学校 HP）

②金沢林業大学校の公開講座開催

森林・林業に関する普及啓発を目的として、林業体験等の公開講座（金沢林業大学校の研修生以外の人も参加可能な講座）を毎年開催します。

令和5年度 金沢林業大学校 公開講座
「チェーンソーのメンテナンススキルアップ」

金沢林業大学校では、本市の森林・林業に関する普及啓発を目的として、研修生以外の方もご参加頂ける講座を毎年開催しています。
現在、下記の講座の参加者を募集しています。

◎講座概要

開催日時 | 令和6年2月23日（金・祝日）9:00～12:00
座学（全員）: 9:00～11:00 実習（希望者）: 11:00～12:00

講座内容 | 座学：実物を用いた構造の解説・基本的なメンテナンス方法の説明等
実習：正しい目立ての実演・参加者による目立てと丸太玉切り

チェーンソーの手入れを正しく行っていますか？
チェーンソーは、刃の目立てや部品の掃除などをきちんと行う必要がある道具です。正しい手入れを行うことで、伐りやすく、壊れにくくなります。

本講座では、チェーンソー等の林業機械を取り扱う《有》新栄商事の吉田光雄氏を迎え、チェーンソーのメンテナンス方法について、座学や実習を通して、お教えいただきます。様々な機械に応用が利く技術ですので、ぜひこの機会に習得しましょう！

◎募集内容・期間

開催場所：金沢森林組合（座学：屋内、実習：屋外）
〒920-1301 石川県金沢市永安町17番地

駐車場：駐車場あり（参加者に事前に地図送付）
対象者：どなたでも（初心者の方歓迎です！）
参加費：無料
定員：先着20名（令和6年2月6日（火）9:00から受付開始）

申請フォームへのリンク

令和5年度公開講座チラシ
(金沢市 HP)

③学校等と連携した森林環境教育の推進

市内の幼稚園・保育園、小学校などにおける遠足や学校行事などの行先として、拠点施設と連携することで、森林・林業に関するワークショップ、木工体験イベント、木のおもちゃ体験などを通じて、子ども達が森や木に触れ、楽しみ、学ぶことによる「森林環境教育」の一助となることを想定します。

また、市外の学校からも森林環境教育の受入となる活動の場として利用されることや、金沢市における木の文化都市を学べる施設として利用されることなどを想定します。

本施設はこれら森林環境教育の場として、金沢の木育・教育の普及により森や木に関心を持つ人材を育成します。



木工体験イベント



森のようちえん



森の学校

6 拠点施設の運営・企画体制

拠点施設において想定する活動内容

(5) 情報発信

森林・林業に関する情報発信（イベント、制度、木材、製品等）の強化を図るため、金沢市林業振興協議会事務局を本施設内に設け、他 4 つの拠点機能と連携した、より一層の情報発信を推進します。

①各種イベント情報、木造建築物、学生コンテスト作品などの情報発信

金沢市が主催、共催、後援するイベント等の情報や、「木の文化都市・金沢」として市内における先進木造建築物の事例などを展示・紹介します。

また、「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業において学生たちが中心になって設計された作品、受賞作品（応募資料、模型など）の展示、提案事業公開プレゼンテーション（アイデア発表）の場所として活用することを想定します。



第 1 回学生提案事業 最優秀賞
木の間-KINOBA-（金沢市 HP）

②林業道具、建築資材、木材活用事例などの情報発信

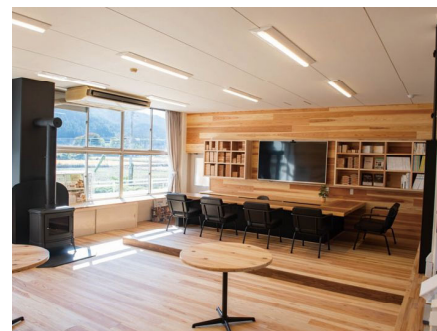
林業に必要な道具や機材、木の文化都市を実現するため、木を外装等に利用する建物に支援（補助制度）や木材（建築資材）使用の取扱いなどについて、PR 動画の公開や展示・紹介します。



Hotel らしく金沢（金沢市 HP）

③金沢産材における木のショールーム（商用利用事例紹介）、製品の展示など

金沢産材の利用方法や特徴、商用利用の事例などのショールームや、金沢産材の製品を一堂に見ることができる展示などを行うことで、金沢産材の需要拡大を図ります。



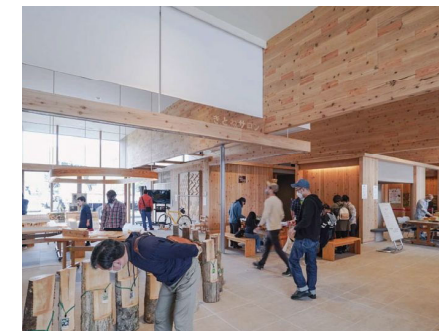
民間会社が運営する木づかいショールーム
（FOREST DOOR HP）

(6) その他

森林・林業に関する様々なイベントや講演会などの実施、施設内（屋内運動場、運動場を含む）における多様な活動、スペースを活用した運用を推進します。

①森林・林業に関する様々なイベント（地域連携、体験型）や、講演会などの実施

地域との連携、ソロキャンプやミニドローン操作などの体験型イベント、各業界の専門家等による国産木材セミナー・講演会などを通して、子どもから大人までが森や木に親しみながら楽しめる機会を創出します。



南会津林業祭 2022
（株式会社芳賀沼製作 パネルログ HP）

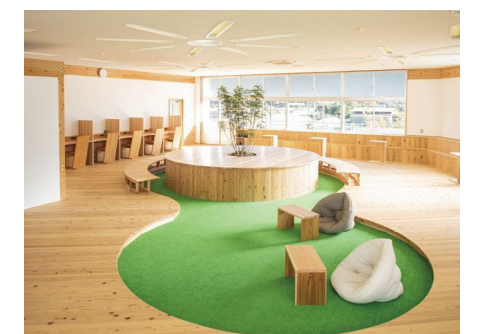


体育館でのドローン体験
（日本ドローン機構株式会社 HP）

②コワーキングスペース、貸スペースとしての運用

落ち着き有る木の空間で、仕事や勉強、クリエイティブ製作などの様々なシーンに対応した高速通信と電気（コンセント）が完備された「コワーキングスペース」として活用できる場所を用意します。

また、施設内の各諸室は、利用用途を限定することなく、地域の交流活動、趣味の集い、学校のクラブ・サークル活動、自主イベントなど、様々な活動の貸スペース（レンタルスペース）として活用することを可能とします。



木の coworking スペース
（FOREST DOOR HP）

③施設を活用した企画展・特別展、民間企業とのコラボ

民間企業のノウハウ、アイデアなどを活用するため、施設整備のめざす姿、役割を踏まえ、森林・林業と親和性の高いコラボ企画・特別展などを本施設で開催できるよう検討します。また、年に複数回開催される定例企画や、四季にあわせた特別展なども開催できるよう運営に努めます。